

[ホーム](#) > [お知らせ](#) > [プレスリリース](#)

プレスリリース

2020年
2019年
2018年
2017年
2016年

2017年

12月25日

IoT/組み込み機器向けマルウェア対策の自社開発ソフト「WhiteSec」を販売開始

12月7日

IoTの統合監視を実現するOSS「Zabbixプロフェッショナルサービス」を販売開始

11月6日

遠隔地での音声認識／自動翻訳／リアルタイム表示を実現し、働き方改革をサポートするダイバーシティ・コミュニケーションツール「LiveTalk」を販売開始

11月1日

地域の特性見える化・分析ツール「EvaCva+」を提供開始

10月30日

CASBサービス「Symantec CloudSOC」を販売開始

10月19日

大阪教育大学、富士通のシステムを活用した アクティブ・ラーニングを開始

9月28日

「富士通SSLソリューションフォーラム2017」を開催

9月21日

「マルウェア検知・拡散防止サービス」を販売開始

8月22日

音声言語を文字言語化する「LiveTalk」×スマートグラス「MOVERIO」 聴こえのバリアを乗り越える新たなプラネタリウム鑑賞の実証実験を実施

7月21日

優良な子育てサポート企業として「プラチナくるみん」を取得

7月12日

障がい者雇用の促進に向けた子会社を設立

6月29日

役員人事について

5月15日

富士通SSLとエージェンテックが 360度映像を活用した臨場感あるフィールドワーク支援ツールの開発に着手

4月10日

地理情報システム統合プラットフォーム「ArcGIS」を販売開始

4月3日

役員人事に関するお知らせ

3月8日

AIを活用する多言語翻訳機能を実装した、ダイバーシティ・コミュニケーションツール「LiveTalk」を販売開始

2月23日

マルチベンダーネットワーク運用支援ツール「Net LineDancer」を販売開始

2015年以前のプレスリリースは[旧ページ](#)をご確認ください。

利用条件

個人情報保護ポリシー

お問い合わせ

サイトマップ

富士通ホームへ

Copyright 1994 - 2021 FUJITSU

[プレスリリース](#)

プレスリリース

[関連リンク](#)[お問い合わせ](#)

2017年12月25日

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ

IoT/組み込み機器向けマルウェア対策の自社開発ソフト 「WhiteSec」を販売開始

～実績を積んだセキュアOS技術により、サイバー攻撃からIoT/組み込み機器を保護～

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：林恒雄）は、IoT/組み込み機器のデバイスメーカー向けにマルウェア対策ソフトウェア「WhiteSec(ホワイトセック)」を2017年12月25日に販売開始します。

「WhiteSec」は、マルウェアの実行を抑止するホワイトリスト実行制御機能や、USBメモリなど外部媒体からのマルウェア侵入を防ぐデバイス制御機能、デバイス上の脆弱性からマルウェア感染を防ぐメモリ保護機能など、IoT/組み込み機器に最適化した高度なセキュリティ機能により、サイバー攻撃からデバイスを保護します。

同製品のホワイトリスト実行制御機能は、許可されていないプログラムの実行をブロックするため、デバイスに未知のマルウェアが侵入した場合でもマルウェアの活動を抑制できます。また、頻繁に更新が必要なウイルス定義ファイルが不要なため、閉域網で運用されている組み込み機器のマルウェア対策としても有効です。

「WhiteSec」の主要な機能は、当社開発の「FUJITSU Security Solution SHieldWARE（以下、SHieldWARE）」のサーバを要塞化するセキュアOS技術を、IoT/組み込み機器向けに応用したものです。「SHieldWARE」は、金融機関などミッションクリティカルな基幹システムへの導入実績が多数あり、販売開始から13年にわたり機能強化を重ねて数多くのお客様に選ばれ続けています。

当社は、今回販売するWindows版「WhiteSec」に加え、2018年4月にLinux版の提供も予定しており、今後拡大が予測されるIoT機器や組み込み機器をサイバー攻撃から守り、安心安全な社会の実現に貢献してまいります。

【背景】

あらゆるモノがインターネットにつながるIoTは、今後幅広い分野への活用が期待され、さらなる進展が予測されています。一方、IoTが社会に広く普及することで、IoTデバイスを踏み台にした大規模なサイバー攻撃の発生や、IoTデバイスの悪用による人や環境への物理的な損害など、セキュリティリスクは高まっています。

また、近年国内や海外において、閉域網で運用されている小売店のPOSシステムや工場の制御系システムを狙ったマルウェア感染が発生し、顧客のクレジットカード情報の漏えいや工場の操業停止など深刻な被害が報告され、組み込み機器をターゲットにしたサイバー攻撃の増加も懸念されています。

IoT機器や組み込み機器は、運用形態やデバイスの特性上セキュリティパッチをすぐに適用できないケースが多く、脆弱性が放置されやすいといった問題が指摘されており、対策が急がれています。

当社は、急務となっているIoT/組み込み機器のマルウェア対策のために、2004年の提供開始から機能強化を重ね実績を積んできたサーバ向けOSセキュリティ強化ツール「SHieldWARE」のセキュアOS技術を応用し、「WhiteSec」を新たに開発しました。

【「WhiteSec」の特長】

1. ホワイトリスト実行制御で未知のマルウェアの活動をブロック
あらかじめホワイトリストに登録されたプログラムのみ実行を許可するため、新種のマルウェアが侵入した場合でもマルウェアを実行させません。特定のプログラム実行を禁止するブラックリスト方式と異なり、頻繁に更新が必要なウイルス定義ファイルが不要なため、定義ファイルの更新が困難な組み込み機器もマルウェアから守ります。
2. USBメモリなどのデバイス制御で外部からのマルウェア侵入を抑止
デバイス制御機能により、USBメモリからのマルウェア感染を防止することが可能です。また、データ持ち出しによる情報漏えいを防ぐためにUSBメモリの読み込みは許可するが書き込みは禁止するといった使い方も可能です。
3. メモリ保護で脆弱性を突いた不正なコード実行を防止
プログラム実行時にメモリ領域の整合性をチェックするメモリ保護機能により、バッファオーバーフロー(注1)の脆弱性を利用した不正なコードの実行を防止することが可能です。これにより、ホワイトリストに登録されているプログラムに脆弱性が発見された場合のリスクを低減できます。
4. 機器の性能に影響を与えないセキュリティ対策
改ざんされたプログラムの実行を防ぐには、毎回実行時に改ざんチェックを行う方式が一般的ですが、改ざんチェック処理の負荷が機器性能に大きな影響を与えます。
「WhiteSec」は、セキュアOS技術により改ざんチェック処理が不要となりセキュアかつ高速に実行されます。
5. 安心して導入いただける導入支援サービス（オプションサービス）
スムーズに「WhiteSec」を導入いただくために、ご希望に応じて導入支援サービスをご提供します。

【対応OS】

Windows XP Embedded、Windows Embedded 2009、Windows Embedded 7、
Windows 10 IoT

【組み込みLinux（2018年4月対応予定）】

Linuxへの対応を予定しています。なお、各種ディストリビューションや独自環境に導入するためのポーティングサービスも合わせて提供予定です。

【販売価格】

個別見積

※デバイス個数や利用形態などお客様に合わせた柔軟な価格設定でご提供します。

【販売開始日】 2017年12月25日

【出荷開始日】 2018年2月1日

【販売目標】 2年間で2億円

【関連Webサイト】

- 「WhiteSec」
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/products/network/security/network-security/cyberattack-prevention/whitesec/>

【注釈】

(注1) バッファオーバーフロー：
プログラムが確保したメモリサイズを越えるデータが入力されたり送り込まれることでメモリ領域があふれ、予期しない動作が起きる現象。

【株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリについて】

URL：<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/>

当社は富士通グループの一員として、ソフトウェア開発／システム構築を中心に事業を展開してきました。現在、それらの実績と最先端のICTをもとに「Digital Platform」「Security」「Business Application」「Innovation」の4つのカテゴリ、53のソリューション群「PoweredSolution（パワード・ソリューション）」により、お客様の企業価値向上をご支援しています。また、「オープンイノベーションHUB」として数多くの大学や先進企業と共創活動を行ってきた実績を活かし、お客様と共にイノベーションの創出に取り組んでいます。

【商標について】

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

以上

報道関係者お問い合わせ先

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 広報室

TEL:044-739-1520(直通) / E-mail：ssl-pro@cs.jp.fujitsu.com

お客様お問い合わせ先

[株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 商品お問合せ窓口](#)

プレスリリースに記載された製品の価格、仕様、サービス内容、お問い合わせ先などは、発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

[ページの先頭へ](#) 

2017年12月7日

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ

IoTの統合監視を実現するOSS 「Zabbixプロフェッショナルサービス」を販売開始

～当社の認定スペシャリストがOSSの豊富な経験とノウハウを活かし、
Zabbixのスムーズな導入と公式サポートをワンストップで提供～

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：林恒雄）は、オープンソース・ソフトウェア（OSS）のIoT統合監視ツール「Zabbix（ザビックス）」の導入をご支援する「Zabbixプロフェッショナルサービス」を2017年12月7日に販売開始します。当社は、日本国内のZabbix認定パートナーとしてZabbix Japan LLCと連携を強化し、OSSの経験豊富な当社の認定スペシャリストがZabbixのスムーズな導入を行い、さらに、日々の運用サポートまでワンストップで提供することで、安心・安全にZabbixをご利用いただける環境をご提供します。

近年、IoTの普及により、企業内における監視対象機器が多種多様かつ増加の一途を辿るなか、これらのIoTを一元的に監視するためZabbixのニーズが高まっています。Zabbixは、サーバやネットワーク機器、アプリケーションなど複数のITリソースの監視・追跡が可能なエンタープライズ向けのOSSで、既に社会基盤や官公庁をはじめ、金融、教育、マーケティングなど、世界中の様々な分野において活用されています。

当社は2006年にOSSビジネスに本格的に着手し、ElasticsearchやPostgreSQLなどの導入を支援する「OSS導入ソリューション」をはじめ、Zabbixを含む約70種類に対応した「OSSサポートソリューション」、商用データベースからOSSデータベースへの移行を実施する「データベース移行ソリューション」の提供により、経験、ノウハウを蓄積してきました。また当社は、日本OSS推進フォーラムやPostgreSQLエンタープライズ・コンソーシアム、オープンソースライセンス研究所など社外コンソーシアムでの活動を通じ、最先端の知見を積極的に取り入れOSSの推進に注力しています。

この度当社は、高まるZabbixのニーズに対応するため、認定スペシャリストが導入をご支援する「Zabbixプロフェッショナルサービス」の提供を開始します。これまで培ってきた豊富な経験とノウハウを駆使し、PoC（[注1](#)）や設計など初期の検討段階から構築に至るまで一連の作業をご支援することで高品質な基盤のスムーズな導入を実現します。さらに日々の運用についても、Zabbix Japan LLCと密に連携した公式サポートにより、高い技術力ときめ細かなサービスでお客様の安心・安全なご利用環境を実現します。

今後当社は、長年培ってきた高い技術力と実績から得たノウハウを活かし、OSSを活用した効果的で利便性の高いシステムのご提案から構築、日々の運用までトータルでご支援していきます。

【「Zabbixプロフェッショナルサービス」の特長】

1. Zabbix 認定スペシャリストがPoCや各種設計を行い、スムーズな導入を実現

当社のZabbix 認定スペシャリストがお客様のご要件や課題のヒアリングを行い、各機器の監視内容やパラメーターの設計など初期段階からご支援することで、高品質かつ最適な基盤を構築し、スムーズな導入を実現します。さらに、Zabbixの導入効果をお客様が判断したうえ

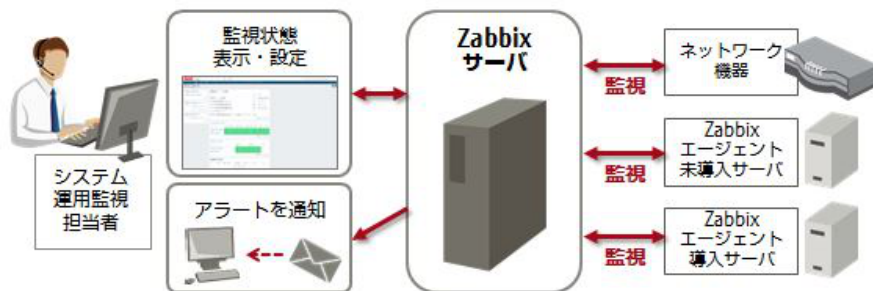
で導入いただけるよう、導入効果の評価支援の作業としてPoC支援も実施します。

2. 安心してご利用いただける、きめ細かなサポート体制を整備

OSSの導入に不安のあるお客様にも安心してご利用いただけるよう、当社は日本国内のZabbix認定パートナーとしてZabbix Japan LLCと密に連携し、より専門性の高い、きめ細かなサポートを提供します。また、お客様のご要件やご予算にあわせて作成したSLA（注2）に基づき、お客様に最適なサポートサービスをご提供します。

3. Zabbixエージェント未導入のサーバも稼働監視が可能

Zabbixエージェントを未導入のサーバについても稼働の監視を行うことができます。Zabbixエージェント導入の場合は、さらに、リソース監視やアプリケーション監視が可能となります。



[図を拡大表示](#) (52 KB)

「Zabbixプロフェッショナルサービス」構成図

【Zabbixについて】

Zabbixは、サーバやネットワーク機器、アプリケーション等の可用性や稼働状況を統合的に監視・追跡するソフトウェアです。高いパフォーマンスで膨大なデータを形式に捉われることなく収集し、ネットワーク上の複数ITリソースをWebブラウザ上でリアルタイムに監視することができます。これにより、稼働状況の可視化や分析も可能となります。また、障害検知、通知機能を備えており、障害発生時は速やかに該当機器を把握でき、早急な対応を可能にします。既に世界中で利用されており、監視対象数台から数万台の規模まで、あらゆる規模での稼働実績を有します。

【販売価格と販売開始日】

サービス名	販売価格	販売開始日
「Zabbixプロフェッショナルサービス」	個別見積り	2017年12月7日

【販売目標】 2年間で30社

Zabbix Japan LLCからのエンドースメント

Zabbix Japan LLCは、株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ様の「Zabbixプロフェッショナルサービス」の販売開始を心より歓迎いたします。

OSSを活用したシステム構築で豊富なナレッジと実績がある富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ様とのパートナーシップ締結により、これまで以上にミッションクリティカルなシステムへZabbixを安心してご検討・導入いただくことが可能になると期待しております。

Zabbixをより安心して利用いただけるよう技術支援と協業を進めてまいります。

Zabbix Japan LLC 代表 寺島 広大

【サービス詳細】

- 「Zabbixプロフェッショナルサービス」

<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/services/application-services/enterprise-applications/oss/donyu/zabbix/>

【関連Webサイト】

- 「OSS導入ソリューション」
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/services/application-services/enterprise-applications/oss/donyu/>
- 「OSSサポートソリューション」
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/services/application-services/enterprise-applications/oss/support/>
- Zabbix Japan LLC 公開Webサイト
<https://www.zabbix.com/jp/> 

【注釈】

(注1) PoC (Proof of Concept : 概念実証)
新しい概念や理論、原理などが実現可能であることを示すための簡易な試行。

(注2) SLA (Service Level Agreement : サービス品質保証)
サービスを提供する側とその利用者の間に結ばれるサービスのレベル(定義、範囲、内容、達成目標等)に関する合意書。

【株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリについて】

URL : <http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/>

当社は富士通グループの一員として、ソフトウェア開発/システム構築を中心に事業を展開してきました。現在、それらの実績と最先端のICTをもとに「Digital Platform」「Security」「Business Application」「Innovation」の4つのカテゴリ、53のソリューション群「PoweredSolution (パワード・ソリューション)」により、お客様の企業価値向上をご支援しています。また、「オープンイノベーションHUB」として数多くの大学や先進企業と共創活動を行ってきた実績を活かし、お客様と共にイノベーションの創出に取り組んでいます。

【商標について】

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

以上

報道関係者お問い合わせ先

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 広報室

TEL:044-739-1520(直通) / E-mail : ssl-pro@cs.jp.fujitsu.com

お客様お問い合わせ先

[株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 商品お問合せ窓口](#)

プレスリリースに記載された製品の価格、仕様、サービス内容、お問い合わせ先などは、発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

[ページの先頭へ](#) 

[富士通ホームへ >>](#)

プレスリリース

プレスリリース

関連リンク

お問い合わせ

2017年11月6日

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリー

遠隔地での音声認識／自動翻訳／リアルタイム表示を実現し、働き方改革をサポートするダイバーシティ・コミュニケーションツール「LiveTalk」を販売開始

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリー（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：林恒雄）は、ダイバーシティ・コミュニケーションツール「FUJITSU Software LiveTalk（フジツウ ソフトウェア ライブトーク）」（以下、LiveTalk）に、国内外拠点でも利用可能なリアルタイム遠隔地連携機能を追加し、2017年11月10日に販売開始します。また、イベント会場での情報保障を支援する「公開イベント字幕配信サービス」も同日に販売開始します。



<リアルタイム遠隔地連携イメージ>



<「公開イベント字幕配信サービス」イメージ>

【背景】

「LiveTalk」は、発話者の発言を音声認識し、即時にパソコンやスマートフォンなど複数の端末にテキスト表示することで、聴覚障がい者や言語の異なる人を含む、その場にいる全員のリアルタイムなコミュニケーションを可能にする製品です。2015年の販売開始以降、スマートデバイスへの対応や19か国の多言語翻訳など、時代のニーズに合わせ実用性の高い機能を追加し、学校や病院、グローバル企業などで様々な用途に活用されています。

昨今、企業では個人のライフスタイルに合わせた「働き方改革」が推進されており、場所や時間に縛られず円滑にコミュニケーションのとれる環境作りが求められています。また、東京オリンピック、パラリンピックなど国際的なイベントを控え、多様な人々が集まる場における情報保障が急務となっています。

【新機能について】

これらの社会的背景を受け、当社はこのたび、パブリッククラウド（Microsoft Azure）上に中継サービス（リアルタイム遠隔地連携サービス）を構築することで、従来の同一アクセスポイント、同一セグメント内という枠を超え、離れた場所でもリアルタイムに多言語翻訳とテキスト表示が可能な遠隔地連携機能を開発しました。これにより、例えば、在宅勤務者

も、本社や海外拠点と発言のタイムラグや使用言語を気にすることなくテレビ会議を行うことができ、さらに、一時的に離席しても、履歴から発言内容を確認することができます。

また今回、イベント来場者自身のスマートフォンに講演者や説明員の発言内容をテキスト表示する「公開イベント字幕配信サービス」の提供も開始します。イベント来場者は、QRコードを読み込むだけで、「LiveTalk」で翻訳、テキスト変換された講演者や説明員の発言内容を自身のスマートフォンから閲覧することができます。表示言語は、英語や中国語、スペイン語など19言語のうち、あらかじめ設定された中から任意の言語を自由に選択可能です。

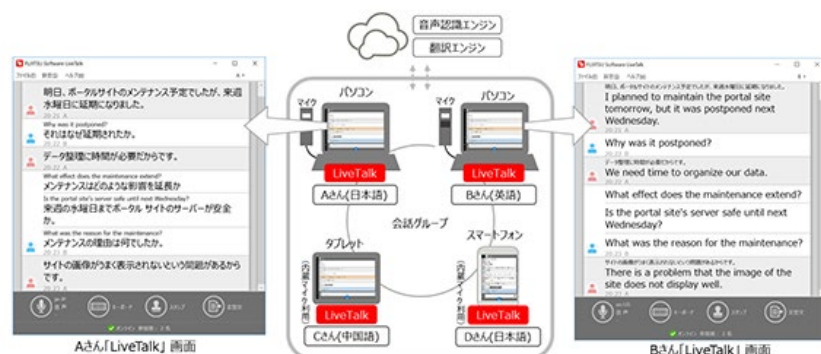
今後当社は、企業における働き方改革やイベントでの情報保障など、「LiveTalk」の活用シーンをさらに広げていくことで、より幅広い層に向け、言語や障がいに関根のない円滑なダイバーシティ・コミュニケーションを実現していきます。

2017年11月10日（金曜日）に開催する「富士通SSLソリューションフォーラム2017」では、「公開イベント字幕配信サービス」を活用し、セミナーでの情報保障を行います。講演者の発言内容をお手持ちのスマートデバイスで閲覧いただけますので、ぜひお試しください。

【リアルタイム遠隔地連携機能の特長】

リアルタイム遠隔地連携サービス（Microsoft Azure Marketplaceにて提供）を経由することで、従来の「LiveTalk」の使い勝手はそのままに、アクセスポイントやセグメントの制約を受けることなく発話と同時に音声認識し、自動翻訳したテキストをリアルタイムに表示する当社独自の技術により、遠隔地間でも確実なコミュニケーションを実現します。

- ・在宅勤務やサテライトオフィスなど、場所に捉われずワークスタイルに合わせて利用でき、企業の「働き方改革」におけるコミュニケーションの環境作りを支援します。
- ・海外を含めた複数の拠点間を繋ぎ利用することができます。タイムラグのない音声認識と多言語翻訳、リアルタイムなテキスト表示により、言語の異なる海外支社間の会議でもストレスのないスムーズな会議進行が可能になります。
- ・Microsoft Azureを利用したリアルタイム遠隔地連携以外にも、企業で導入が進むMicrosoft社のオンライン会議「Skype for Business」との連携も選択可能であり、音声を文字化することで聞き逃しを防止し、ビデオ会議を円滑に進めることができます。



 [図を拡大表示](#) (67 KB)

【公開イベント字幕配信サービスの特長】

イベント来場者個人のスマートデバイスに、講演者や展示員の発言内容をテキスト表示します。アプリが不要で、来場者はQRコードから専用ページにアクセスするだけで、手軽に閲覧することができます。

- 従来、講演会では、日本語や英語など限られた字幕をスクリーンに映し出すという翻訳が一般的でしたが、本サービスにより、各自のスマートデバイスから翻訳内容が閲覧可能となります。「LiveTalk」が提供する19言語のうち、主催者側であらかじめ設定された複数言語から来場者は任意の言語を選択することができます。
- 展示ブースにおいても、展示員と来場者間のコミュニケーションツールとして利用することができます。聴覚障がい者や外国人などの来場者に対し、本サービスをご利用いただくことで情報保障が可能となります。

【販売価格】

■ダイバーシティ・コミュニケーションツール 「FUJITSU Software LiveTalk」

販売価格（税別）	1クライアント	50,000円
	5クライアント	200,000円

※ リアルタイム遠隔地連携のご利用にあたっては、マイクロソフトが提供するクラウドプラットフォームMicrosoft Azureの 契約が必要となります。（契約は無料。無料プランまたは従量課金月額6,450円～のランニングコストがかかります。）

※ 上記ツールの他、音声認識エンジンなどその他商品（注1）が必要です。

※ パソコン、スマートデバイスなどは価格に含みません。

※ スマートデバイスでご利用の場合は、保守サービス契約が必須となります。（1クライアント 1,000円／年）

■「公開イベント字幕配信サービス」

販売価格（税別）	初期設定	50,000円
	1トラック（1QRコード）	10,000円／日

※ 公開イベントに限ります。（社内向けなど、クローズのイベントではご利用いただけません。）

※ 1トラックあたりの同時配信最大ユーザー数 300名。それ以上の場合は、300名毎に10,000円加算。

【販売開始日】 2017年11月10日

【出荷開始日】 2017年11月21日

【販売目標】

「FUJITSU Software LiveTalk」：1,000クライアント／1年間

「公開イベント字幕配信サービス」：230トラック／1年間

【関連情報】

「富士通SSLソリューションフォーラム2017」

日 時	2017年11月10日（金曜日） 10時～17時 デモ展示：10時～17時 セミナー：10時40分～15時50分 「公開イベント字幕配信サービス」で情報保障を行います。
会 場	THE GRAND HALL（品川）
入場料	無料
URL	http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/resources/event/forum/

【注釈】

（注1）その他商品：

日本語音声認識のために、株式会社アドバンスト・メディアの音声認識ソフトウェア「AmiVoice® SP2」または、音声認識クラウドサービス「AmiVoice® Cloud」が必要です。

※多言語翻訳機能を利用する場合は、別途、日本マイクロソフト株式会社の「Microsoft

Azure Cognitive Services - Bing Speech API」(多言語音声認識エンジン)、「Microsoft Azure Cognitive Services - Translator Text API」(多言語翻訳エンジン)の契約が必要です。

【関連リンク】

- ダイバーシティ・コミュニケーションツール「LiveTalk」製品ページ：
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/products/software/applications/ud/livetalk/index.html>
- 「『LiveTalk』が川崎市の福祉製品基準『かわさき基準』に認証」(2016年3月31日)：
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/resources/news/topics/0331/index.html>
- 「聴覚障がい者参加型コミュニケーションツール『LiveTalk』がグッドデザイン・ベスト100を受賞」(2015年9月30日)：
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/resources/news/topics/0930/index.html>
- 「聴覚障がい者参加型コミュニケーションツール『LiveTalk』を発表」(2015年4月14日プレスリリース)：
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/resources/news/press-releases/2015/0414.html>
- 「富士ゼロックスサービスクリエイティブ様、聴覚障がい者参加型コミュニケーションツール『LiveTalk』の本格運用を開始」(2015年10月22日プレスリリース)：
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/resources/news/press-releases/2015/1022.html>

【株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリについて】

URL：<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/>

当社は富士通グループの一員として、ソフトウェア開発／システム構築を中心に事業を展開してきました。現在、それらの実績と最先端のICTをもとに「Digital Platform」「Security」「Business Application」「Innovation」の4つのカテゴリ、53のソリューション群「PoweredSolution(パワード・ソリューション)」により、お客様の企業価値向上をご支援しています。また、「オープンイノベーションHUB」として数多くの大学や先進企業と共創活動を行ってきた実績を活かし、お客様と共にイノベーションの創出に取り組んでいます。

【商標について】

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

以上

報道関係者お問い合わせ先

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 広報室

TEL:044-739-1520(直通) / E-mail：ssl-pro@cs.jp.fujitsu.com

お客様お問い合わせ先

[株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ](#) 商品お問合せ窓口

プレスリリースに記載された製品の価格、仕様、サービス内容、お問い合わせ先などは、発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

[ページの先頭へ](#) 

2017年11月1日

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリー

地域の特性見える化・分析ツール「EvaCva+」を提供開始

～オープンデータを活用し、「経済」「社会」「環境」分野で計184項目の指標をグラフで見える化。

地域特性を活かした戦略立案や地方創生を支援。～

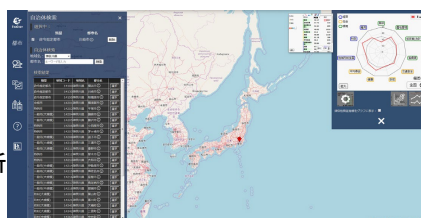
株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリー（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：林恒雄）は、地域の特性見える化・分析ツール「EvaCva+（エヴァシーヴァ・プラス）」を2017年11月1日に提供開始します。

「EvaCva+」は、政府統計データや府省公開データといったオープンデータを活用し、「経済」「社会」「環境」の分野で、全国1,741市区町村の特性見える化・分析するWebツールです。「経済」には事業所

数や税徴収率、「社会」には人口増減率や保育所数、「環境」には可住地面積やゴミ

排出量など計184項目（2017年10月現在）の指標があり、それらのデータを地域活性化の施策立案や事業所の適地検討などに活用することができます。Web画面上で分析したい自治体と指標を選択するだけで、全国ランキングや経年推移、各種グラフやヒートマップを表示するため、それらの図やグラフを計画書や報告書に活用することができ、手作業によるデータ収集、グラフ作成が不要となります。

2012年、政府は国家戦略として「電子行政オープンデータ戦略」を掲げました。当社は「EvaCva+」の前身となる「EvaCva」を富士通株式会社および株式会社富士通研究所と共同で開発、2014年に無償で提供を開始し、自治体を中心とした多くの方々と共に実証実験を行ってまいりました。その中で、数多くのご要望をいただき、この度、無償版「EvaCva」に新たな指標と、参考自治体の自動抽出機能など、数々の新機能を加えてバージョンアップし、商用版「EvaCva+」として提供開始します。当社は自治体や企業向け「EvaCva+」を提供することで、今後、地域特性を活かした戦略立案や地方創生を支援していきます。



<「EvaCva+」画面イメージ>

 [図を拡大表示](#) (744 KB)

【「EvaCva+」の特長】

1. 「経済」「社会」「環境」分野 計184項目の指標の見える化が可能

- 分析したい自治体と指標を選択するだけで、レーダーチャートや散布図などのグラフ、ヒートマップ、一枚レポートとして見える化し、施策立案や施策効果検証などの目的に合わせた分析を行うことができます。
- 選択した複数自治体の指標を同一グラフに表示し、近隣自治体や同規模自治体間のデータの差異や類似要素を一目で比較することができます。

2. 課題解決に向けた参考自治体を自動で検出可能

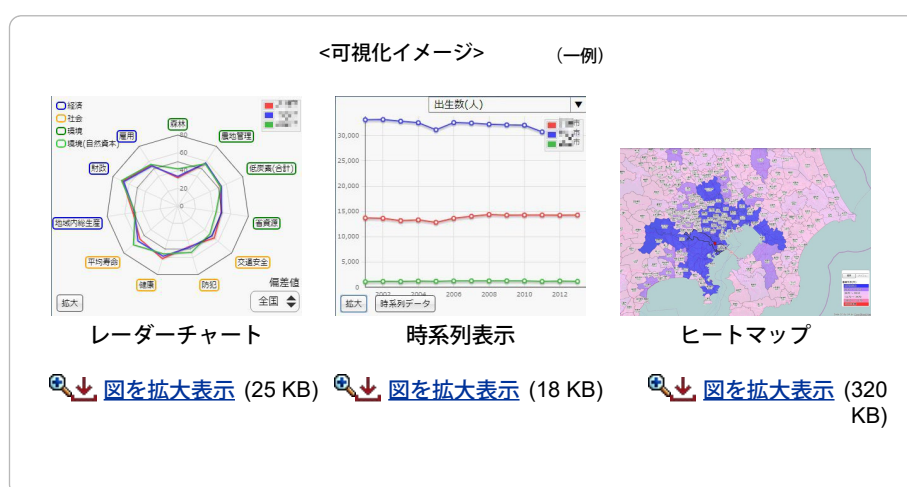
- 課題となっている指標を選択することで、類似した指標特性を持つ自治体の中から参考となる自治体を自動で抽出します。これにより、近隣自治体だけでなく、日本全国のデータから課題解決のためのヒントを得ることができます。さらに、産業の特性に基づいた参考自治体の抽出も可能です。

3. オープンデータとオリジナルデータを組み合わせて表示可能

- オープンデータに加え、個別で保有するデータもcsv形式でアップロードし、「EvaCva+」の画面上で見える化できるため、目的に合った独自の検索結果で精度の高い分析を可能にします。

4. クラウドサービスのため必要な時期だけ月額で利用可能

- ユーザー登録完了後、WebブラウザからIDとパスワードを入力するだけで利用を開始することができます。システム構築費やデータ作成などの初期投資は不要です。
- 自治体における総合計画の策定期間など、業務プランに合わせて月額でご利用いただくことができます。



【サービスメニュー】

サービス名	備 考
「EvaCva+」基本サービス	・月額サービス（サポート込み） ・5IDまでの発行を含む
利用者追加オプション（5ID）	・5IDまで（5ID単位で追加可能）

※価格はお問い合わせください。

【販売開始日】 2017年11月1日

【関連Webサイト】

- 地域の特性見える化・分析ツール「EvaCva+」

<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/products/software/applications/website/evacva-plus/>

【株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリについて】

URL： <http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/>

当社は富士通グループの一員として、ソフトウェア開発／システム構築を中心に事業を展開してきました。現在、それらの実績と最先端のICTをもとに「Digital Platform」「Security」「Business Application」「Innovation」の4つのカテゴリ、53のソリューション群「PoweredSolution（パワード・ソリューション）」により、お客様の企業価値向上をご支

HUB

援しています。また、「オープンイノベーション」として数多くの大学や先進企業と共創活動を行ってきた実績を活かし、お客様と共にイノベーションの創出に取り組んでいます。

【商標について】

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

以上

報道関係者お問い合わせ先

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 広報室

TEL:044-739-1520(直通) / E-mail : ssl-pro@cs.jp.fujitsu.com

お客様お問い合わせ先

[株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 商品お問合せ窓口](#)

プレスリリースに記載された製品の価格、仕様、サービス内容、お問い合わせ先などは、発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

[ページの先頭へ](#) 

プレスリリース

プレスリリース

関連リンク

お問い合わせ

2017年10月30日

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ

CASBサービス「Symantec CloudSOC」を販売開始

～複数クラウドサービスの利用状況の可視化と制御により、
一貫したセキュリティポリシー適用を実現～

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：林恒雄）は、株式会社シマンテックと販売契約を締結し、企業で利用されている複数クラウドサービスの利用状況の可視化と制御を実現するCASB（Cloud Access Security Broker）サービス「Symantec CloudSOC（シマンテック クラウドソック）」を2017年10月30日に販売開始します。

近年、クラウドサービスは、その利便性や費用対効果の高さから企業システムの中に急速に浸透し、適用範囲もグループウェアや営業支援システムなど様々な領域に広がっています。また、社員による積極的な複数クラウドサービスの活用や、「働き方改革」への取り組みによるテレワーク等の柔軟な働き方の導入が進むことで、オフィス外から直接クラウドサービスを利用するシーンが増加しています。オフィス内外で社員が複数クラウドサービスを利用する場合、ファイアウォール等の従来の境界型セキュリティでは、全社のクラウド利用状況や重要データの保管状況などを企業が把握できなくなる、いわゆる「シャドーIT」の問題が発生し、クラウドサービスに対応した新しいセキュリティ対策が必要とされています。

CASBサービス「Symantec CloudSOC」は、自社内で利用されているクラウドサービスの可視化や、やり取りされている機密データを監視し、危険な共有を解除するなどの制御をすることで、今まで困難であった複数のクラウドサービスに対する企業の一貫したセキュリティポリシー適用を実現します。

当社は、同サービスの提供とSymantec製品の大規模導入実績を活かし、お客様に安心してクラウドサービスを活用いただける環境構築を支援していきます。また、今後もクラウドサービス利用環境のセキュリティ強化に向けたサービス拡充を進め、お客様の安全・安心を提供してまいります。

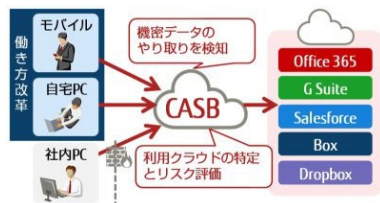


図1. クラウド利用の可視化イメージ



図2. セキュリティポリシー適用イメージ

[図を拡大表示](#) (23 KB)

[図を拡大表示](#) (22 KB)

【CASBサービス「Symantec CloudSOC」の特長】

1. 全社クラウドサービスの利用状況を可視化し、リスクの高いサービスをブロック可能

- 今まで把握が困難であった全社員のクラウドサービス利用状況を確認できます。これにより、未許可にも関わらず利用されていたクラウドサービスの特定が可能となります。

- Symantec社が提供するProxySGと連携することで、未許可のクラウドサービスへのアクセスをブロックするなどのアクセス制御が可能です。
- 各クラウドサービスのリスクレベルを確認できるため、アクセスをブロックすべきサービスかどうかを容易に判断することが可能です。

2. 企業ポリシーに反する機密情報の扱いを検知して制御可能

- クラウドサービス上のファイルのデータ種別や共有状況などを特定し、それらに合わせたセキュリティポリシーを強制適用できます。データ種別は日本独自のマイナンバーなども含め自動認識されます。
- マイクロソフトの「Office 365」やGoogleのビジネスアプリケーションスイート「G Suite」等に個人情報を含む情報が共有された場合に、強制的に共有解除などが可能です。また、機密情報のアップロード・ダウンロードをブロックすることで情報漏えい対策を実現します。

3. ユーザーの振る舞いに基づいた制御が可能

- 機械学習によりユーザーの行動を分析し、振る舞いに応じたセキュリティポリシーの適用が可能です。例えば、ユーザーの怪しい挙動を検知した場合に、自動的にアクセス制限や強制ログアウトを実施することで、不正アクセスによる情報漏えいリスクを低減します。

【販売価格（税別）】

1,000ユーザー 3,000,000円～（年額サブスクリプション）

※クラウドサービス利用状況の可視化（シャドーIT分析）を行う場合の概算

【対応クラウドサービス】

Office 365、G Suite、Box、Dropbox、Salesforce、Amazon Web Services、Microsoft Azure、ServiceNow、DocuSign、Jive、GitHub など

【販売開始日】 2017年10月30日

【出荷開始日】 2017年11月1日

【販売目標】 3年間で35社、35,000ユーザー

【関連Webサイト】

- CASBサービス「Symantec CloudSOC」

<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/services/infrastructure/network/cloud/casb/index.html>

【株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリについて】

URL : <http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/>

当社は富士通グループの一員として、ソフトウェア開発／システム構築を中心に事業を展開してきました。現在、それらの実績と最先端のICTをもとに「Digital Platform」「Security」「Business Application」「Innovation」の4つのカテゴリ、53のソリューション群「PoweredSolution（パワード・ソリューション）」により、お客様の企業価値向上をご支援しています。また、「オープンイノベーションHUB」として数多くの大学や先進企業と共創活動を行ってきた実績を活かし、お客様と共にイノベーションの創出に取り組んでいます。

【商標について】

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

以上

報道関係者お問い合わせ先

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 広報室

TEL:044-739-1520(直通) / E-mail : ssl-pro@cs.jp.fujitsu.com

お客様お問い合わせ先

[株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 商品お問合せ窓口](#)

プレスリリースに記載された製品の価格、仕様、サービス内容、お問い合わせ先などは、発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

[ページの先頭へ](#) 

2017年10月19日

国立大学法人大阪教育大学

富士通株式会社

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリー

大阪教育大学、富士通のシステムを活用したアクティブ・ラーニングを開始

国立大学法人大阪教育大学（所在地：大阪府柏原市、学長：栗林澄夫、以下 大阪教育大学）と富士通株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：田中達也、以下 富士通）は、スマートデバイスを活用し、議論を活発化させる対話型のアクティブ・ラーニング支援システムを構築し、大阪教育大学で2017年10月より授業での運用を開始します。本システムは、[株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリー](#)（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：林恒雄）の共創活動を支援するプラットフォーム「Webコア Innovation Suite（ウェブコア イノベーションスイート）」を採用しています。

本システムでは、学生が所有するスマートフォンなどでQRコードを読み取り、表示された画面からコメントを投稿すると、自動的に教室内のスクリーンに映し出されます。教員やほかの学生がそれに対して意見や回答を行うことで、これまでの受動的な講義型の授業から、学生が能動的に参加しやすい授業形態になり、活発な議論を通して授業内容の理解を深めるインタラクティブな講義スタイルを実現します。また、発信された学生の意見や質問はPowerPointに変換できるため、プレゼンテーションやドキュメントとして再利用が可能となります。

大阪教育大学は、学生と教員が理解を高める知識習得型のアクティブ・ラーニングを容易に実現できる本システムの利用を促進する予定です。また、富士通は、大阪教育大学をはじめとしたこのような取り組みに対し、サービス・ソリューションの提供を通じて支援することで、学生の成長に貢献していきます。



写真：授業での活用イメージ



図：システムイメージ

【背景】

教育現場では、人材育成の観点で、特に重要となる主体性を伸ばすため、学生たちが授業に積極的に参加し、仲間とともに考えながら問題解決を行うアクティブ・ラーニングが注目されています。

大阪教育大学では、学生の意見を活発化させ、議論を通し意見を集約していく対話型の授業を実践することで、自ら行動できる人材の育成を目指しており、学生や教員が手軽にアクティブ・ラーニングを始められるシステムの導入を検討してきました。今回、学生の所有するスマートフォンなど使い慣れたスマートデバイスを利用し、少ない手順ですぐに意見を発

信でき、かつシンプルなユーザーインターフェースにより教員が操作しやすいアクティブ・ラーニング支援システムの活用を、まずは一般講義で開始し、段階的に適用範囲を拡大していきます。

【利用シーン】

授業に参加する学生が相互に意見を出し合うセッションにおいて、授業前に配布されたQRコードをスマートフォンなどから読み取り、表示された入力画面から意見や質問を投稿することで、それらが教室のスクリーンに映し出されます。教員は、マウス操作、もしくはスクリーンへのタッチ操作によりコメントの配置や拡大縮小を自由に行うことができ、重要な意見を強調したり、意見を分類しながらまとめたりすることが簡単に行えます。また、授業中に随時質問を受け付け、授業の区切りでまとめて解説を加えたり、質問の傾向を把握し授業に反映していくことなども想定しています。

【想定される効果】

1. 積極的な授業参加による理解の深化

学生は口頭での発言に加え、より多くの意見や質問を発信でき、教員やほかの学生がスクリーンに表示されたコメントに対して議論や回答をすることで、授業内容の理解を深め、興味を高めることができます。また、匿名での投稿も可能なため、聞きづらい質問や言いづらい意見も活発に発信することができます。これらにより、学生の積極的な授業参加を促進します。

2. 簡単な操作で全員参加を実現

スマートフォンやタブレット端末、パソコンなど、普段から使い慣れたデバイスのブラウザで利用できるため、特別な環境を準備せずに誰もが簡単にアクティブ・ラーニングに参加できます。また、画面に投稿内容を入力し送信ボタンを押すだけで、すぐに意見を発信するなど、煩雑な操作による思考の妨げを最小限にする仕組みにより、意見やアイデアを考えることに集中することができます。

3. 学生の意見や質問をより効果的に把握し、授業の質向上を促進

投稿された意見や質問は教室のスクリーンに表示され、教員はマウス操作もしくはスクリーンへのタッチによる直感的な操作で、表示を大きくしたり、分類しまとめたりすることができます。さらに、まとめた結果は編集可能なオブジェクトのままPowerPointのスライドに変換することができ、授業への反映や成果の蓄積、分析・ナレッジ化といった将来のプロセスに結びつけることができます。

4. 遠隔拠点からの積極的参加の実現

本システムはネットワークに接続できる環境であれば利用できるため、他大学からテレビ会議システムを利用して大阪教育大学の授業を受講している場合でも、遠隔から意見を発信することができます。直接教員に質問する機会が得にくかった他大学の学生も、積極的な授業参加が可能になります。

【今後】

大阪教育大学は、授業でのアクティブ・ラーニング手法の採用率70%以上を目標に、本システムの活用を推進していきます。また、テレビ会議システムで参加している他大学からの授業参加を実現することで、学習機会の確保を図っていきます。

富士通グループは、本システムの提供を通じて、学生の成長に貢献していきます。

【商標について】

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

以上

お客様お問い合わせ先

富士通コンタクトライン

電話：0120-933-200

受付時間：9時～17時30分（土曜日・日曜日・祝日・富士通指定の休業日を除く）

プレスリリースに記載された製品の価格、仕様、サービス内容、お問い合わせ先などは、発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

[ページの先頭へ](#) 

[利用条件](#) [個人情報保護ポリシー](#) [お問い合わせ](#) [サイトマップ](#)

Copyright 1996-2020 FUJITSU SOCIAL SCIENCE LABORATORY LIMITED

[富士通ホームへ](#) 

プレスリリース

プレスリリース

関連リンク

お問い合わせ

2017年9月28日

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ

「富士通SSLソリューションフォーラム2017」を開催

～ テーマは「先進デジタルテクノロジーが実現する安心安全で豊かな社会」～

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：林恒雄）は、2017年11月10日（金曜日）、THE GRAND HALL（東京都港区）にて、「先進デジタルテクノロジーが実現する安心安全で豊かな社会」をテーマに、プライベートフォーラム「富士通SSLソリューションフォーラム2017」を開催します。

近年、「IoT」「AI」「クラウド」などのデジタルテクノロジーが急速に進展し、企業での利活用が進んでいます。また、政府が掲げる「働き方改革」は企業が最優先で取り組むべき課題となっており、テレワークをはじめとした柔軟な働き方の導入が広がってきています。一方で、サイバー攻撃の巧妙化が進み脅威の増すなか、これらの新しいテクノロジーや多様な労働環境に対応したセキュリティ対策が不可欠となっています。

「富士通SSLソリューションフォーラム2017」では、自社ソリューション群「PoweredSolution（パワード・ソリューション）」からデジタル社会を支える当社のセキュリティソリューションを中心に「デジタルエコノミー」「働き方改革」など4つのテーマによる展示や、有識者による講演を行います。また、先端技術で実現する働き方改革や共創への取り組みなども合わせてご紹介します。

本フォーラムのご案内や事前お申し込みなどの詳細については、「富士通SSLソリューションフォーラム2017」Webサイトをご覧ください。

【「富士通SSLソリューションフォーラム2017」概要】

1. 日時

2017年11月10日（金曜日） 10時～17時（受付 10時～16時30分）

[セミナー] 10時40分～15時50分

[デモ展示] 10時～17時

2. 会場

THE GRAND HALL（東京都港区港南2-16-4 品川グランドセントラルタワー3F）

3. テーマ

先進デジタルテクノロジーが実現する安心安全で豊かな社会

4. 参加料

無料（事前参加申込制）

[申し込み締切] 2017年11月2日（木曜日） 17時

「富士通SSLソリューションフォーラム2017」Webサイト
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/resources/event/forum/>

【デモ展示概要】

最新「PoweredSolution」のセキュリティソリューションと関連ソリューションを14のブースでご紹介します。また、オープンイノベーションゾーンでは、先端技術を実際に体感いただけます。

<セキュリティで支えるデジタル社会 エリア>

- [Aゾーン] 新たな変化に幅広く対応する「デジタルエコノミー」
- [Bゾーン] 技術と知恵で企業の未来を変える・支える「働き方改革」
- [Cゾーン] クラウドの運用を安心快適にする「クラウドプラットフォーム」
- [Dゾーン] お客様のセキュリティ運用を支える「マネージド・セキュリティサービス」

<デジタル社会をリードする先端技術 エリア>

- [Eゾーン] オープン・イノベーション（参考出展）

【セミナー概要】

各分野の先端をいく有識者による講演を予定しています。

- [10:40～11:50] 「医療VR仮想現実／AR拡張現実／MR複合現実の衝撃」
国際医療福祉大学大学院 准教授／HoloEyes株式会社 取締役 COO 杉本 真樹 氏
- [13:10～14:10] 「新生シマンテックと富士通によるグローバルサイバーセキュリティ戦略
日本企業に浸透し始めた CASB ～企業側ニーズと事例の紹介～」
株式会社シマンテック 執行役員社長 波立 行智 氏、エバンジェリスト 高岡 隆佳 氏
- [15:00～15:50] 「IoTにおけるサイバー攻撃の最新動向とその対策」
横浜国立大学大学院 環境情報研究院／先端科学高等研究院 准教授 吉岡 克成 氏

（注）デモ展示、セミナーの内容は変更することがあります。

【「PoweredSolution」について】

URL：<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/powered/>

「PoweredSolution」は2000年から提供している当社のソリューション群です。「Digital Platform」、「Security」、「Business Application」、「Innovation」の4つのカテゴリ、52のソリューションにより、お客様に安全・安心なICT環境を提供するとともに、お客様の新たな価値創出をご支援します。

商標について

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

以上

報道関係者お問い合わせ先

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 広報室

電話：044-739-1520(直通) / E-mail：ssl-pro@cs.jp.fujitsu.com

お客様お問い合わせ先

プレスリリースに記載された製品の価格、仕様、サービス内容、お問い合わせ先などは、発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

[ページの先頭へ](#) 

プレスリリース

プレスリリース

関連リンク

お問い合わせ

2017年9月21日

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリー
マカフィー株式会社

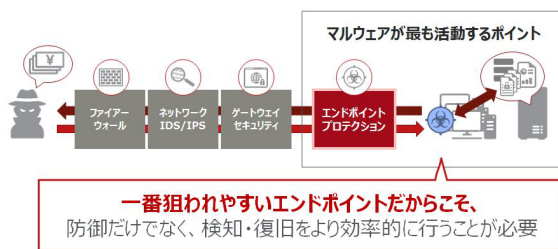
「マルウェア検知・拡散防止サービス」を販売開始

～ マカフィーのEDRソリューションと富士通SSLの脅威情報を活用し、
セキュリティスペシャリストが強固なエンドポイント対策を実現 ～

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリー（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：林恒雄、以下：富士通SSL）は、マカフィー株式会社（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：山野修、以下：マカフィー）とマカフィーのEDR（注1）ソリューションに関するサービスプロバイダー契約を締結し、マカフィーの本ソリューションを活用した世界初のエンドポイント対策サービス「マルウェア検知・拡散防止サービス」を2017年9月21日に販売開始します。

ランサムウェアが猛威を振るう現在、世界では数十万個に及ぶ巧妙化した新種のマルウェアが日々発生しており、特に、一番狙われやすいエンドポイントから侵入する被害が急増しています。未知の脅威が身近に存在する状況の中、企業では多層防御でネットワークセキュリティを強化すると同時に、エンドポイントについても対策の見直しが急務とされています。富士通SSLは2016年より、標的型攻撃対策サービスやウイルス対策サービスなどエンドポイントのセキュリティサービスを提供し、お客様のセキュリティ対策を包括的にご支援しています。この度、富士通SSLは、エンドポイントのサービス内容を強化し、マカフィーのEDRソリューションと富士通SSLの脅威情報を活用した「マルウェア検知・拡散防止サービス」を新たに提供開始します。

「マルウェア検知・拡散防止サービス」は、エンドポイントに侵入したマルウェアの検知や自動隔離・駆除に加え、富士通SSLのセキュリティスペシャリストが脅威情報を活用し、対処、復旧、報告までの一連のインシデント対応を

 [図を拡大表示](#) (69 KB)

ご支援するサービスです。マカフィーの提供するEDRソリューションは、エンドポイントにおけるマルウェアの検知だけでなく、感染したパソコンの隔離、駆除に加え、マルウェアの振る舞いや拡散状況の可視化までトータルにサポートするソリューションで構成されています。富士通SSLは、自社のSOC（Security Operation Center）（注2）で蓄積した脅威情報と、マカフィーのEDRソリューションで可視化した振る舞い・拡散情報をもとに、迅速かつ適切に対処、復旧することで拡散を防止し、従来時間を要したインシデント対応の早期終結と工数削減をご支援します。

今後、富士通SSLは、SOCでの監視対象を拡大して脅威情報の充実を図り、より一層高品質なサービスでお客様のエンドポイント対策を提供していきます。また、マカフィーはグローバル規模のセキュリティに関する知見を継続的に製品やソリューションに取り入れること

で、ランサムウェアなどますます巧妙化、複雑化する脅威から組織のエンドポイントを保護するとともに、マカフィーが提唱する防御、検知、復旧、適応という脅威対策のライフサイクルを通じた統合的なセキュリティの実現を支援します。

【「マルウェア検知・拡散防止サービス」の特長】

エンドポイントにおけるマルウェアを検知し、さらに自動で隔離・駆除を実行

■マカフィーのEDRソリューションにより新種のマルウェアも確実にブロック

- ウイルス定義ファイルや機械学習によるマルウェアの検知、業務への影響を最小限にしたマルウェアの封じ込め、振る舞いのクラウド解析など、マカフィーのEDRソリューションが備える複数の検知技術により、新種や亜種のマルウェアもブロックします。
- 本サービス利用企業で検知されたマルウェア情報も、富士通SSLのセキュリティスペシャリストがお客様のパソコンへ脅威情報としてリアルタイムに共有し、侵入を防御します。

■ネットワークを自動遮断し、マルウェアを隔離・駆除

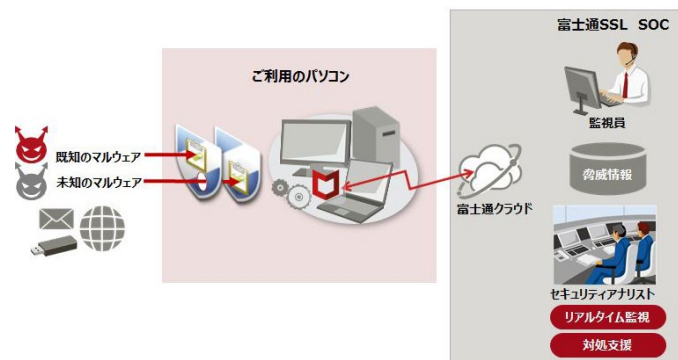
- マルウェアを検知した際、パソコンを社内ネットワークから自動的に遮断し、リモートでセキュアにマルウェアを隔離・駆除します。さらに、マルウェアの一連の動きを把握し、振る舞い・拡散状況を可視化します。

セキュリティスペシャリストがマルウェアの判別から対処、復旧、報告までの一連のインシデント対応を支援

- 富士通SSLのセキュリティスペシャリストが、2000年より蓄積した脅威情報や調査ノウハウなどSOCの知見を駆使し、検知したマルウェアの判別をはじめ、振る舞い・拡散状況をもとに、対処から復旧、報告までの一連をご支援することで、インシデント対応の早期終結と工数削減を可能にします。

クラウドサービスのため、サーバの調達・管理は不要。始めたい時すぐに導入可能

- 安全性、信頼性の高い富士通クラウド基盤を利用しており、安心・安全にご利用いただけます。クラウドサービスなので管理サーバの調達やセットアップ、パッチ適用などの運用は不要で、富士通SSLが日々の運用を代行し、常に最新の環境を提供します。お客様はモジュールをパソコンにインストールするだけですぐにご利用いただくことができます。



[図を拡大表示](#) (44 KB)

【「マルウェア検知・拡散防止サービス」構成イメージ】

【販売価格】

--	--	--

サービス名	販売価格（税抜き）	販売および出荷開始
マルウェア検知・拡散防止サービス	1,000台 230万円～／月 （利用台数により異なります。） ※ライセンス、運用費を含む	販売開始日 2017年9月21日 出荷開始日 2017年10月2日

【販売目標】 3年間で10億円

【関連Webサイト】

「マルウェア検知・拡散防止サービス」

<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/services/infrastructure/network/managed/endpoint-security/malware-detection/>

【注釈】

（注1）EDR（Endpoint Defense and Response：エンドポイント検知／対応ツール）

エンドポイントのマルウェアを検知し、侵入後の対応をスピーディーに行うことを目的とした製品。

（注2）SOC（Security Operation Center）

セキュリティ製品・ネットワーク機器・サーバなどのログを監視・分析し、サイバー攻撃の検知・通知を行う組織。

【関連情報】

■富士通SSLが提供するエンドポイントセキュリティサービス

お客様のご要件に合わせ、各種サービスを月額制で手軽にご利用いただくことができます。

	マルウェア検知・拡散防止サービス【新規】	標的型攻撃対策サービス	ウイルス対策サービス
シグネチャ検知	○	○	○
ふるまい検知	○	○	—
脅威情報利用	○	○	—
パソコン隔離	○	—	—
駆除・復旧対応	○	—	—

「標的型攻撃対策サービス」

定義ファイルに依存しないエンジンで、振る舞いによる未知のマルウェアを検知します。

<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/services/infrastructure/network/managed/endpoint-security/target-option/>

「ウイルス対策サービス」

世界中からマルウェア情報を収集し、シグネチャベースによる既知のマルウェアを検知します。

<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/services/infrastructure/network/managed/endpoint-security/virus/>

【株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリについて】

URL：<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/>

当社は富士通グループの一員として、ソフトウェア開発／システム構築を中心に事業を展開

開してきました。現在、それらの実績と最先端のICTをもとに「Digital Platform」
「Security」「Business Application」「Innovation」の4つのカテゴリ、52のソリューション
群「PoweredSolution（パワード・ソリューション）」により、お客様の企業価値向上をご支
援しています。また、「オープンイノベーションHUB」として数多くの大学や先進企業と共
創活動を行ってきた実績を活かし、お客様と共にイノベーションの創出に取り組んでいま
す。

【マカフィー株式会社について】

URL：<http://www.mcafee.com/jp/> 

マカフィーは世界最大規模の独立系サイバーセキュリティ企業です。業界、製品、組織、
そして個人の垣根を超えて共に力を合わせることで実現する、より安全な世界を目指し、企
業そして個人向けのセキュリティソリューションを提供しています。詳細はマカフィー
のWebサイトをご覧ください。

【商標について】

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

以上

報道関係者お問い合わせ先

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 広報室

TEL:044-739-1520(直通) / E-mail：ssl-pro@cs.jp.fujitsu.com

お客様お問い合わせ先

[株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ](#) [商品お問合せ窓口](#)

プレスリリースに記載された製品の価格、仕様、サービス内容、お問い合わせ先などは、発表日現在のものです。その後予告なし
に変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

[ページの先頭へ](#) 

2017年8月22日

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリー

音声言語を文字言語化する「LiveTalk」×スマートグラス「MOVERIO」 聴こえのバリアを乗り越える新たなプラネタリウム鑑賞の実証実験を実施

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリー（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：林恒雄）は、川崎市とセイコーエプソン株式会社（本社：長野県諏訪市、代表取締役社長：碓井稔、以下、エプソン）の協力のもと、「かわさき宙と緑の科学館」（川崎市青少年科学館）内プラネタリウムにて、当社のダイバーシティ・コミュニケーションツール「FUJITSU Software LiveTalk」とエプソンのスマートグラス「MOVERIO」を組み合わせた新たなコミュニケーションツールの活用例として、全国初となるプラネタリウム鑑賞での実証実験を実施します。

高い音声認識率でリアルタイムにテキスト表示が可能な「LiveTalk」と「MOVERIO」の組み合わせにより、プラネタリウム鑑賞時の生解説音声、利用者が装着したスマートグラスにテキストで表示し、利用者は星空を見ながら解説内容を確認することができるようになります。本実証実験は、川崎市のウェルフェアイノベーションの企業間共創型プロジェクトにより実現したもので、「かわさき宙と緑の科学館」にて2017年9月17日に実施されます。

【実証実験の概要と目的】

1. 音声言語を文字言語化する「LiveTalk」（かわさき基準認定製品）と、スマートグラス「MOVERIO」の企業間共創プロジェクトにより、最新技術を搭載した新たなコミュニケーションツールを用いたプラネタリウム鑑賞での実証実験を実施します。
2. この実証実験は、「かわさき宙と緑の科学館」内プラネタリウムをモデルフィールドとして実施します。
3. 「LiveTalk」で文字言語化されたプラネタリウム館内での生解説の音声言語情報を、スマートグラス「MOVERIO」に映し出すことで、宇宙の星空を見ながら、生解説の言葉をテキストで確認することができるようになります。
4. 実証を通じて、聴覚障がいの有無に関わらず、音声言語を文字言語化して情報を提供する新たなコミュニケーションツール活用での価値を生み出すとともに、他の分野への活用への広がりも期待しています。

【実証実験開催概要】

開催場所： [かわさき宙と緑の科学館\(川崎市多摩区枳形7丁目1-2生田緑地内\)](#) 

開催日時： 2017年9月17日(日曜日) 1回目 10時30分から、2回目 13時から


上映時間： 約45分(上映前後30分で、機器利用の事前説明と事後振り返りを行います)

募集人数： 各回10組20名(鑑賞無料招待、小学校5年生以上の方を対象)

(注)応募者多数の場合は、聴覚障がいのある方を優先に、抽選とさせていただきます。

応募方法： 川崎市ホームページ、往復はがき、FAXにて、以下の内容を記載し、お申し込みいただけます。

1.参加希望上映時間

- 2.参加希望人数(2名まで)
 - 3.代表者の氏名(ふりがな)
 - 4.年齢
 - 5.住所
 - 6.連絡先(電話、FAX、メールのいずれか)
 - 7.聴覚障がいの有無
 - 8.その他サポートの有無
- (注)詳細は[川崎市ホームページ](#) をご覧ください。

募集期間： 2017年8月22日(火曜日)～2017年9月5日(火曜日)【必着】

【商標について】

記載されている固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

【関連Webサイト】

- ダイバーシティ・コミュニケーションツール「LiveTalk」製品ページ：
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/products/software/applications/ud/livetalk/index.html>
- 「『LiveTalk』が川崎市の福祉製品基準『かわさき基準』に認証」(2016年3月31日)：
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/resources/news/topics/0331/index.html>
- 川崎市 ウェルフェアイノベーション：
<http://www.city.kawasaki.jp/jigyoku/category/79-31-2-0-0-0-0-0-0-0.html> 
- エプソン「MOVERIO (BT-350)」：
<http://www.epson.jp/products/moverio/bt350special/> 

以上

報道関係者お問い合わせ先

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 広報室

TEL:044-739-1520(直通) / E-mail：ssl-pro@cs.jp.fujitsu.com

お客様お問い合わせ先

[株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ](#) [商品お問合せ窓口](#)

プレスリリースに記載された製品の価格、仕様、サービス内容、お問い合わせ先などは、発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

[ページの先頭へ](#) 

2017年7月21日

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ

優良な子育てサポート企業として「プラチナくるみん」を取得

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：林恒雄）は、改正次世代育成支援対策推進法に基づき行動計画を策定し、厚生労働省 神奈川労働局から2017年6月9日付で「プラチナくるみん」認定を取得しました。「プラチナくるみん」は、「子育てサポート企業」として厚生労働大臣の認定（くるみん認定）を受けた企業のうち、より高い水準の取り組みを行っている企業が認定を受けるものです。

当社は2010年6月に「くるみん」認定を取得し、2012年には、女性社員の能力発揮促進および仕事と育児・介護の両立支援において他企業の模範となる取り組みを推進したとして、「均等・両立推進企業表彰」神奈川労働局長奨励賞を受賞しました。

その後、男性の育児休暇取得推進をはじめ、時間外労働の削減や年次有給休暇の取得向上などの働き方改革に取り組んできました。また、2016年に行動指針「SSL Diversity Way」を制定し、多様な人材の活躍を価値創造につなげる「ダイバーシティ経営」を強力に推進しています。今回さらに、柔軟な働き方に向けた制度の運用や、働き方の見直しにつながる環境整備などを実施し、認定に至りました。

当社は、今後も「プラチナくるみん」の認定企業として、社員が適切なワーク・ライフ・バランスのもとに働ける環境整備に取り組み、より多様な人材が仕事と家庭を両立しながらイキイキと活躍できる企業を目指します。



【取り組み概要】

1. 認証登録日 2017年6月9日
2. 行動計画期間 2014年4月1日～2016年3月31日
3. 主な取り組み内容
 - ①仕事と育児の両立支援に関する柔軟な働き方に向けた制度等の運用および周知
 - ・父親が休暇を取得できる制度のリーフレットを作成し、該当者に配布。配偶者が出産した男性社員の約65%が制度を利用。また、子の看護のための休暇制度（積立休暇制度）の半日単位取得を導入。
 - ②働き方の見直しにつながる環境整備
 - ・時間外労働の削減に向け、36協定締結のレポートや健康安全に関する全社方針を社内発信。さらに、社内管理協定の年間限度時間を縮減し、超過者0名を達成。
 - ・ダイバーシティをはじめ、仕事と介護の両立をテーマとした、ワーク・ライフ・バランスに関する研修を実施。

- 積立休暇の利用対象に家族の看護や不妊治療を追加。
- 在宅勤務トライアルの対象を全社員に拡大し、誰もがチャレンジできる制度を確立。

【関連Webサイト】

くるみん認定及びプラチナくるみん認定企業名都道府県別一覧（厚生労働省ホームページ）

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/jisedai/kijuntekigou/



ダイバーシティへの取り組み

<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/efforts/>

多様な人材の活躍を価値創造につなげる「ダイバーシティ経営」を強力に推進
(2016年3月8日発表)

<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/resources/news/press-releases/2016/0308.html>

『平成24年度「均等・両立推進企業表彰」神奈川労働局長奨励賞』受賞について
(2012年10月3日掲載)

<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/resources/news/topics/1003/>

【株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリについて】

URL：<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/>

当社は富士通グループの一員として、ソフトウェア開発／システム構築を中心に事業を展開してきました。現在、それらの実績と最先端のICTをもとに「Digital Platform」「Security」「Business Application」「Innovation」の4つのカテゴリ、52のソリューション群「PoweredSolution（パワード・ソリューション）」により、お客様の企業価値向上をご支援しています。また、「オープンイノベーションHUB」として数多くの大学や先進企業と共創活動を行ってきた実績を活かし、お客様と共にイノベーションの創出に取り組んでいます。

【商標について】

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

以上

報道関係者お問い合わせ先

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 広報室

TEL:044-739-1520(直通) / E-mail：ssl-pro@cs.jp.fujitsu.com

プレスリリースに記載された製品の価格、仕様、サービス内容、お問い合わせ先などは、発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

[ページの先頭へ](#)

[プレスリリース](#)

プレスリリース

[関連リンク](#)[お問い合わせ](#)

2017年7月12日

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリー

障がい者雇用の促進に向けた子会社を設立

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリー（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：林恒雄）は、障がい者雇用のさらなる促進に向け、2017年7月12日付けで全額出資の子会社「株式会社富士通SSLハーモニー」を設立しました。事業開始後、「障害者の雇用の促進等に関する法律」（[注1](#)）に基づく特例子会社（[注2](#)）の認定を取得する予定です。

当社では、従来よりシステムエンジニアやコーポレートスタッフなど様々な職種で障がい者が活躍しており、2015年度には多様な人材の活躍を価値創造につなげる経営「ダイバーシティ経営」を目指した行動指針「SSL Diversity Way」を制定し多様な人材が活躍できる職場作りを推進しています。また、2016年度は、当事者もメンバーとして参加した「障がい者のための職場」をテーマとしたワーキンググループで、より良い職場に向けた議論を重ねてきました。

今般、当社は、様々な障がい者に働きやすい職場を継続して提供していくために、子会社を設立します。新会社では、個々の障がい特性に配慮した職場環境を整え、障がいのある方がより活躍できる職場を目指します。

【会社概要】

- (1) 商号 : 株式会社富士通SSLハーモニー
- (2) 所在地 : 神奈川県川崎市中原区小杉町1-403 武蔵小杉タワープレイス
- (3) 代表者 : 代表取締役社長 仙田 健（当社執行役員と兼務）
- (4) 事業内容 : 社内配達関連、オフィスサポート、オフィス環境維持・管理、リサイクル関連、他
- (5) 設立年月日 : 2017年7月12日
- (6) 資本金 : 1,000万円（当社全額出資）
- (7) 従業員数 : 12名（うち障がい者10名）

【商標について】

記載されている固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

【注釈】

注1 障害者の雇用の促進等に関する法律：

障がい者の職業の安定を図ることを目的とした法律。

注2 特例子会社：

一定の条件を満たすことにより、親会社と合わせて障がい者の雇用率を算定できる子会社。

【関連Webサイト】

- 株式会社富士通SSLハーモニー
<http://www.fujitsu.com/jp/sslhm/>
- 多様な人材の活躍を価値創造につなげる「ダイバーシティ経営」を強力に推進
(2016年3月8日プレスリリース)
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/resources/news/press-releases/2016/0308.html>
- 富士通SSLの取り組み
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/efforts/>

以上

報道関係者お問い合わせ先

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 広報室

TEL:044-739-1520 / E-mail: ssl-pro@cs.jp.fujitsu.com

プレスリリースに記載された製品の価格、仕様、サービス内容、お問い合わせ先などは、発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

[ページの先頭へ](#) 

[プレスリリース](#)

プレスリリース

[関連リンク](#)[お問い合わせ](#)

2017年6月29日

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ

役員人事について

2017年6月28日に開催された第48回定時株主総会において、下記の役員人事を決定しましたのでお知らせします。

なお、当社関連会社である株式会社SSLパワードサービスの役員人事についても、2017年6月29日開催の第12回定時株主総会により、下記のとおり決定しましたので、あわせてお知らせします。

記

【株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ（2017年6月28日付）】

[選任]

代表取締役社長	林	恒雄（重任）
取締役（非常勤）	砂田	敬之（重任）
取締役（非常勤）	飯島	淳一（重任）
監査役（非常勤）	山田	宏伸

【株式会社SSLパワードサービス（2017年6月29日付）】

[選任]

代表取締役社長	山田	雅裕（重任）
取締役	小林	正明（重任）
取締役	田代	文男（重任）
監査役（非常勤）	池之上	隆司

以上

報道関係者お問い合わせ先

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 広報室

電話：044-739-1520(直通) / E-mail：ssl-pro@cs.jp.fujitsu.com

プレスリリースに記載された製品の価格、仕様、サービス内容、お問い合わせ先などは、発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

[ページの先頭へ](#)

[プレスリリース](#)

プレスリリース

[関連リンク](#)[お問い合わせ](#)

2017年5月15日

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ

株式会社エージェンテック

富士通SSLとエージェンテックが 360度映像を活用した臨場感ある フィールドワーク支援ツールの開発に着手

[株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ](#)（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：林恒雄、以下：富士通SSL）と株式会社エージェンテック（本社：東京都千代田区、代表取締役：金涼採、以下：エージェンテック）は、直観的な理解を促す情報伝達の手段を様々な場面で提供することを目的に、全天球360度映像コンテンツを活用したフィールドワーク支援ツールの開発に着手しました。両社は、360度映像コンテンツを活用することで、現地に赴かずとも臨場感あるフィールドワークの実現を目指します。

その第一歩として、東京・赤坂にある会員制オープンアクセス型DIY工房「TechShop Tokyo（テックショップ東京）」内を紹介する360度映像コンテンツを制作し、5月18日（木曜日）、19日（金曜日）に開催される「富士通フォーラム2017 東京」の「TechShop」コーナーにて公開します。

< 「TechShop Tokyo」360度映像コンテンツ >

全画面表示（[パソコン・タブレット](#) 、[スマートフォン](#) )

【開発の経緯】

富士通SSLは、お客様の共創活動を支援する「Webコア Innovation Suite（ウェブコア・イノベーションスイート）」を2014年12月より提供しています。本製品は、新ビジネスや新商

品の開発に向けたグループ討議の「発散」、「収束」、「評価」のプロセス、および、世の中の潜在的なニーズや課題をあぶり出すために様々な現場に足を運んで観察するフィールドワークを支援するプラットフォームです。当社は本製品を多くのお客様にご利用いただく中で、時間を要するフィールドワークをさらに省力化し、より手軽にできないかと検討を進めてきました。

そしてこの度、クオリティの高い360度映像コンテンツ制作で定評のあるエージェンテックと連携を開始し、富士通SSLが目指すフィールドワークの実現に向け、共同でツールの開発に着手しました。

【今後の計画】

富士通SSLは、今回開発するフィールドワーク支援ツールを製品化し、2017年度末から順次提供する予定です。

エージェンテックは、自社で開発した360度パノラマの空間が見渡せるナビゲーションと情報ナビゲーションを統合したサービスである「Smart360」をフィールドワーク支援ツールに活用することで、「Smart360」のさらなる活用方法の可能性を拡げ、お客様に提案していきます。

【具体的な研究開発内容】

1. 360度映像コンテンツを活用したフィールドワーク支援ツールの開発

360度映像コンテンツを活用し、全方位を自由に見渡しながらバーチャルな感覚で現場を体験できる臨場感に溢れたフィールドワークの実現を目指します。時間と場所に捉われることなく、複数人同時に視察することもでき、フィールドワークにかかる労力の省力化が可能となります。（2017年度内の製品化を予定）

2. 高品質な360度映像コンテンツのスピーディーな制作

360度の静止画や動画を使い、様々な映像コンテンツの制作を重ねながら、高品質な映像コンテンツをスピーディーに制作する手法の研究にも取り組んでいきます。

この取り組みの第一歩として、会員制オープンアクセス型DIY工房「TechShop Tokyo」の工房施設内を紹介するコンテンツを制作し、「富士通フォーラム2017」にて公開します。

【株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリについて】

URL：<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/>

富士通SSLは、富士通グループの一員として、ソフトウェア開発／システム構築を中心に事業を展開してきました。現在、それらの実績と最先端のICTをもとに「Digital Platform」「Security」「Business Application」「Innovation」の4つのカテゴリ、52のソリューション群「PoweredSolution（パワード・ソリューション）」により、お客様の企業価値向上をご支援しています。また、「オープンイノベーションHUB」として数多くの大学や先進企業と共創活動を行ってきた実績を活かし、お客様と共にイノベーションの創出に取り組んでいます。

【株式会社エージェンテックについて】

URL：<http://www.agentec.jp/> 

エージェンテックは、マルチデバイス向けコンテンツハブのプラットフォーム「ABook」

と、360度パノラマの空間が見渡せるナビゲーションと情報ナビゲーションを統合したサービスの「Smart360」を中心にビジネスを展開しています。「ABook」は、MCM（Mobile Contents Management）市場で4年連続国内No.1（注1）のシェアを獲得しています。

2016年4月にリリースした「Smart360」は、「MCPC award 2016」で優秀賞を受賞したほか、第29回「中小企業優秀新技術・新製品賞」でも優秀賞を受賞し、様々な分野で導入が拡大しています。

（注1）ミック経済研究所「コラボレーション/コンテンツ・モバイル管理パッケージソフトの市場展望 2016年度版」より

【TechShop Tokyoについて】

URL：<http://www.techshop.jp/> 

TechShopは、2006年に米国で生まれた会員制オープンアクセス型DIY工房です。木工・金属加工などの本格的DIYスペースのほか、3Dプリンターやレーザーカッターなどの最新鋭デジタル工作機械を多数取り揃え、会員はそれらを使い放題。ここに集う人々が形成するコミュニティによって、これまでに100件を超えるビジネスが生み出され、第三の産業革命とも言われる「メイカームーブメント」の火付け役となりました。

富士通は、2014年末より米TechShop, Inc.と協業を開始。2016年4月にアジア第1号店となる「TechShop Tokyo」を赤坂のアークヒルズに開設しました。敷地面積1,200㎡、最大天井高8mという広大な空間に50種類以上の工作機械を取り揃えており、企業、起業家、投資家、個人クリエイター、学生、主婦、ときには外国人にいたるまで、多様なバックグラウンドを持つ会員によって日々オープンイノベーションが実践されています。

【関連Webサイト】

- 富士通フォーラム2017 東京
<http://forum.fujitsu.com/2017/tokyo/> 
- 企業と学校の共創活動を支援するプラットフォーム「Webコア Innovation Suite」
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/products/software/applications/co-creation/webcore-innovation/>
- 富士通SSLのイノベーションへの取り組み
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/efforts/innovation/>

【商標について】

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

以上

報道関係者お問い合わせ先

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 広報室

TEL:044-739-1520(直通) / E-mail：ssl-pro@cs.jp.fujitsu.com

プレスリリースに記載された製品の価格、仕様、サービス内容、お問い合わせ先などは、発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

[ページの先頭へ](#) 

プレスリリース

プレスリリース

関連リンク

お問い合わせ

2017年4月10日

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ

地理情報システム統合プラットフォーム「ArcGIS」を販売開始

～様々なニーズに柔軟に対応可能な世界シェアNo.1のGIS製品を活用し、業務の戦略的意思決定を支援～

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：林恒雄）は、ESRIジャパン株式会社（本社：東京都千代田区、代表取締役社長：正木千陽）と販売契約を締結し、地理情報システム統合プラットフォーム「ArcGIS（アークジーアイエス）」を2017年4月10日に販売開始します。

「ArcGIS」は、地理に関連する情報の可視化や様々な視点での分析など豊富な機能を備え、業務の戦略的意思決定を支援する世界トップシェアの高機能な地理情報システム（以下、GIS）製品です。同製品は、デスクトップアプリケーションからWebシステムまで多様なシステム形態に対応し、パソコンだけでなくスマートデバイスでも利用可能なため、お客様の利用シーンに合わせて活用いただくことができます。また、豊富な分析ツールや地図データ、アプリが用意されており、各種業務に地理情報を活用した業務の戦略的意思決定が可能となります。

当社は、30年前から様々なお客様のGISを構築しており、現在は、配送計画支援やエリアマーケティングなどのソリューションを提供しています。今回、高機能かつ多様なシステム形態に対応可能な「ArcGIS」の取り扱いを開始することで、業種を問わずお客様の既存環境に応じたGISをコンサルティングから構築、保守を通して提供します。

当社は、「ArcGIS」と長年にわたるGIS構築実績で培ったノウハウにより、地理情報の利活用を促進し、GISによるお客様の業務改革を支援していきます。

【背景】

近年、GPSを内蔵したスマートフォンの普及や測位技術の発展、様々な場所にあるモノがネットに繋がるIoT社会実現に向けた環境整備の進展などにより、ビジネスへの位置情報活用の気運が高まっています。また、2013年6月発表の総務省「G空間×ICT推進会議報告書」（[注1](#)）では、G空間関連の市場規模が2020年には最大で2012年度比約3.1倍に当たる62.2兆円に達するとされています。

当社は、今後も増加が予測されるお客様の位置情報および地理情報に関する幅広いご要望に柔軟かつ迅速にお応えするために、高機能で多様なシステム形態やデバイスに対応した地理情報システム統合プラットフォーム「ArcGIS」の取り扱いを開始しました。

【「ArcGIS」の特長】

1. 地理関連情報を分析・可視化することで最適な意思決定を実現

データの関係性や傾向、パターン、最適解を導き出す「ArcGIS」の強力な分析ツールを活用することで、組織が保有するデータを今まで見えなかった利活用可能な情報として可視化できます。それによって、新しい視点からの理解と総合的な判断が可能となり、最適な意思決定を実現します。



図1. 分析ツール画面イメージ

2. お客様の要件に合わせ、多様なシステム構成で導入可能

デスクトップアプリケーションからクライアントサーバシステム、Webサービスまで、お客様の機能要件、システム規模、コストに合わせたシステム構成で導入いただけます。また、短期間、低価格ですぐに利用可能なクラウドでのGISサービスも提供します。導入後の機能拡張のご要望にもお応えします。



図2. システム構成例イメージ

3. 豊富なアプリですぐにスマートデバイスを活用可能

スマートフォンやタブレットにも対応し、簡単な設定で活用できる豊富なアプリも提供します。

例えば、スマートフォンと現地調査用アプリを利用することで、簡単な操作で現地の調査結果をマップ上に記録することができます。記録した調査結果はリアルタイムにオフィス内でモニタリングでき、迅速な意思決定に役立てる事ができます。なお、お客様の業務内容に合わせたアプリ開発のご要望にもお応えします。



図3. スマートデバイス活用例イメージ

【製品ラインナップと販売価格】

製品名	概要	販売価格（税別）
-----	----	----------

「ArcGIS for Desktop」	デスクトップアプリケーションとして、高度な分析などGISの様々な機能が利用できます。	390,000円～
「ArcGIS for Server」	サーバとしてGISを構築できます。同製品を使い、クライアントサーバシステムやオンプレミスのWebサービスをお客様の業務に合わせて構築します。	1,000,000円～
「ArcGIS Online」	クラウドサービスとして、メンバー間の共有やGISの様々な機能が利用できます。	160,000円～ (10ユーザー、年額)

【販売開始日】2017年4月10日

【販売目標】2億円／3年間

【注釈】

(注1) 2013年6月発表の総務省「G空間×ICT推進会議報告書」
「『G空間×ICT推進会議』報告書の公表」(総務省Webサイト)
http://www.soumu.go.jp/menu_news/s-news/01tsushin01_02000105.html

【関連Webサイト】

- 地理情報システム統合プラットフォーム「ArcGIS」：
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/products/software/applications/gis/arc-gis/>
- 「配送計画支援ソリューション」：
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/services/application-services/enterprise-applications/gis/delivery/>
- 「エリアマーケティングソリューション」：
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/services/application-services/enterprise-applications/gis/area-marketing/index.html>

【株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリについて】

URL：<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/>

当社は富士通グループの一員として、ソフトウェア開発／システム構築を中心に事業を展開してきました。現在、それらの実績と最先端のICTをもとに「Digital Platform」「Security」「Business Application」「Innovation」の4つのカテゴリ、52のソリューション群「PoweredSolution（パワード・ソリューション）」により、お客様の企業価値向上をご支援しています。また、「オープンイノベーションHUB」として数多くの大学や先進企業と共創活動を行ってきた実績を活かし、お客様と共にイノベーションの創出に取り組んでいます。

【商標について】

記載されている製品名などの固有名词は、各社の商標または登録商標です。

以上

報道関係者お問い合わせ先

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 広報室

TEL:044-739-1520(直通) / E-mail：ssl-pro@cs.jp.fujitsu.com

お客様お問い合わせ先

プレスリリースに記載された製品の価格、仕様、サービス内容、お問い合わせ先などは、発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

[ページの先頭へ](#) 

[プレスリリース](#)

プレスリリース

[関連リンク](#)[お問い合わせ](#)

2017年4月1日

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ

役員人事に関するお知らせ

当社は、4月1日付で下記のとおり役員の人事異動を行いますので、お知らせいたします。

記

1. 取締役・監査役

代表取締役社長	林	恒雄
取締役（非常勤）	砂田	敬之
取締役（非常勤）	飯島	淳一（新任）
監査役（非常勤）	山田	宏伸

2. 執行役員

執行役員社長	林	恒雄
執行役員	仙田	健
執行役員	唐渡	直之
執行役員	田村	浩
執行役員	芳根	明宏
執行役員	東條	正和
執行役員	都丸	良弘（新任）
執行役員	石津	昌弘（新任）

3. 退任

前取締役執行役員常務 嶋田強は常任顧問に就任しました。
前取締役（非常勤） 湯原雅之は退任しました。
執行役員 山田雅裕は顧問に就任しました。

以上

報道関係者お問い合わせ先

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 広報室

電話：044-739-1520(直通) / E-mail：ssl-pro@cs.jp.fujitsu.com

プレスリリースに記載された製品の価格、仕様、サービス内容、お問い合わせ先などは、発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

[プレスリリース](#)

プレスリリース

[関連リンク](#)[お問い合わせ](#)

2017年3月8日

富士通株式会社

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ

AIを活用する多言語翻訳機能を実装した、 ダイバーシティ・コミュニケーションツール「LiveTalk」を販売開始

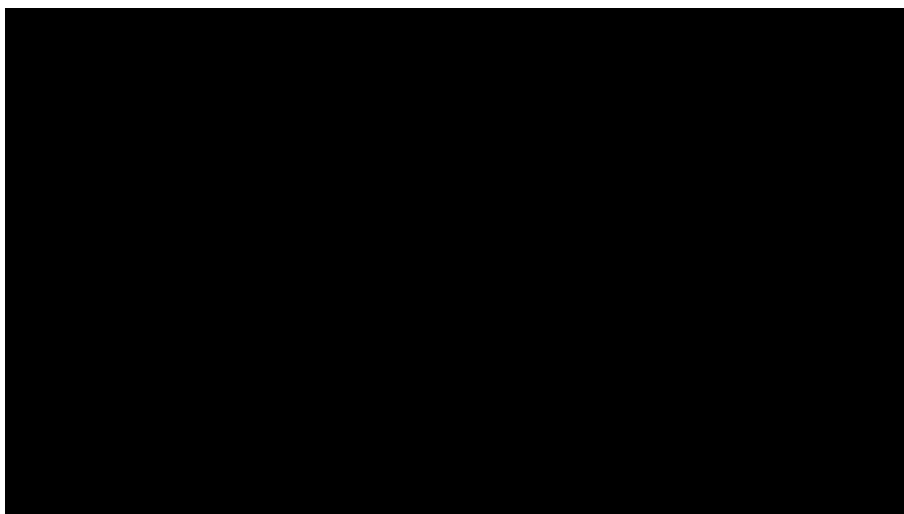
～19言語をリアルタイムに音声認識・自動翻訳し、
多言語でのスムーズなコミュニケーションを支援～

富士通株式会社（本社：東京都港区、代表取締役社長：田中達也、以下、富士通）と株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：林恒雄、以下、富士通SSL）は、従来の聴覚障がい者参加型コミュニケーションツール「FUJITSU Software LiveTalk（フジツウ ソフトウェア ライブトーク）」（以下、LiveTalk）に多言語対応機能を追加し、ダイバーシティ・コミュニケーションツールとして2017年3月8日より新たに提供開始します。

「LiveTalk」は、企業での会議や学校での授業などにおいて、発話者の発言を音声認識し、即座に複数の端末にテキスト表示することで、聴覚障がい者を含む参加者全員のリアルタイムなコミュニケーションを可能にするソフトウェアです。

これまでの「LiveTalk」は日本語のみの対応でしたが、新たに多言語の音声認識と、AIを搭載した翻訳エンジンに対応し、富士通SSLの独自技術によって即座に翻訳内容をテキスト表示する機能を実装しました。これにより、従来の聴覚障がい者とのコミュニケーションだけでなく、様々な言語間でのリアルタイムなコミュニケーションが実現できます。

富士通と富士通SSLは、「LiveTalk」の提供を通じて、国際的なイベントの会場や観光地における外国人向け案内支援、企業における多言語での会議運営など、様々な利用シーンにおけるダイバーシティ・コミュニケーションの実現を支援していきます。



「LiveTalk」紹介動画（再生時間1分17秒／音声あり）

【背景】

「LiveTalk」は2015年5月の販売開始以来、障がい者に向けた合理的配慮（[注1](#)）の実現に向け、聴覚障がい者とのコミュニケーション支援ツールとして、企業や病院、自治体、教育

機関など約100社の企業・団体で活用されています。2016年11月には、場所を選ばずより手軽に利用できるようスマートデバイスにも対応するとともに、認識率の高いクラウド音声認識エンジンを採用するなど、実用性を高めるための機能強化を図ってきました。

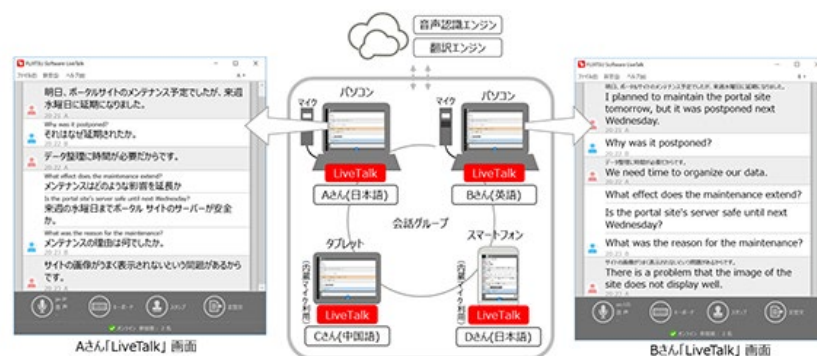
近年、日本では今後開催が予定されている様々な国際的なイベントや、それに伴って必要となる言語コミュニケーションの障壁を取り除くための取り組みに対する関心が高まっています。また企業においても、企業活動のさらなるグローバル化の進展により、外国籍従業員とのコミュニケーションを支援する製品やサービスへのニーズも増えています。

このような社会的背景を受け、富士通と富士通SSLは、多言語の音声認識と、AIを搭載した翻訳エンジンに対応した「LiveTalk」を、ダイバーシティ・コミュニケーションツールとして新たに提供を開始します。

【機能強化の概要】

1. 19言語の音声認識と自動翻訳を実現

- 日本語のほか、英語、中国語（簡体字）、中国語（繁体字）、韓国語、フランス語、スペイン語、アラビア語、ロシア語、ポルトガル語、ドイツ語、イタリア語、ポーランド語、オランダ語、デンマーク語、フィンランド語、スウェーデン語、ノルウェー語、カタロニア語の全19言語間の音声認識、および自動翻訳に対応します。
- 日本語・英語・中国語（簡体字）・フランス語・スペイン語・アラビア語・ロシア語・ポルトガル語・ドイツ語・イタリア語の10言語においては、AIを搭載した翻訳エンジンに対応したことで、より高精度の翻訳が可能です。
- 各利用者は、自分の端末に表示させたい一言語を選択するだけで、発話者の言語を指定した言語に翻訳して表示させることが可能です。発話者側の言語設定は必要なく、また、会話グループ内で利用できる言語の数や組み合わせに制限はありません。
- 複数の参加者から同時に発話があった場合でも発話者を識別して翻訳できます。
- 音声認識による入力以外にキーボードでの入力も可能なため、聴覚障がい者も他の言語を話す参加者とのコミュニケーションを容易に実現可能です。

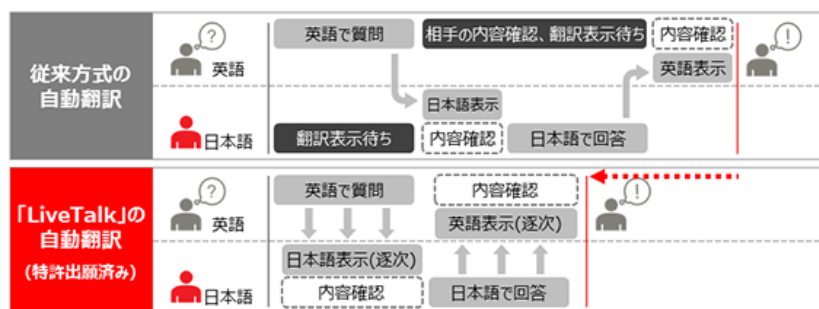


[図を拡大表示](#) (67 KB)

図1. 多言語自動翻訳 利用イメージ

2. 発話と同時に翻訳結果を表示する独自技術で円滑なコミュニケーションを実現

- 発話と同時に翻訳結果を表示する富士通SSLの独自技術（特許出願済み）により、通常の会話と同様の感覚でテンポよくコミュニケーションをとることが可能です。
- 発話が終わってから翻訳結果が表示されるまでにタイムラグのある従来型の翻訳ツールと比較して、翻訳の待ち時間を省略でき、ストレスのないコミュニケーション環境を提供します。



[図を拡大表示](#) (55 KB)

図2. 従来方式の自動翻訳との比較イメージ

【今後の展開】

富士通と富士通SSLは、2017年度以降に「LiveTalk」をグローバルに展開することを検討しています。それに先駆け、2017年3月9日から米国カリフォルニア州サンタクララで開催される「Fujitsu World Tour 2017 with Fujitsu North America Technology Forum 2017」や、2017年3月20日からドイツのハノーバーで開催される世界最大級の情報通信技術の国際見本市「CeBIT 2017」の富士通ブースに「LiveTalk」を出展します。

両社は今後も、ICTの活用によって多様な人々の間に存在するコミュニケーションの課題を解決し、お客様のダイバーシティ・コミュニケーションを支援していきます。

【販売価格】※音声認識エンジンなどその他商品（注2）が必要です。

製品名	販売価格（税別）	
ダイバーシティ・コミュニケーションツール 「FUJITSU Software LiveTalk」	1クライアント	50,000円
	5クライアント	200,000円
「FUJITSU Software LiveTalk」保守サービス	1クライアント	年額費用 10,000円

※パソコン、スマートデバイスなどは価格に含みません。

※スマートデバイスでご利用の場合は、保守サービス契約が必須となります。

【販売開始日】2017年3月8日

【販売目標】400クライアント／1年間

【添付資料】

[「LiveTalk」販売価格詳細](#) (272 KB/A4, 1 page)

【注釈】

（注1）合理的配慮：

「障害者が他の者との平等を基礎として全ての人権及び基本的自由を享有し、又は行使することを確保するための必要かつ適当な変更及び調整であって、特定の場合において必要とされるものであり、かつ、均衡を失した又は過度の負担を課さないものをいう。」（出展：「障害者の権利に関する条約」「第二条 定義」）

（注2）その他商品：

※日本語音声認識のために、株式会社アドバンスト・メディアの音声認識ソフトウェア

「AmiVoice® SP2」または、音声認識クラウドサービス「AmiVoice® Cloud」が必要です。

※多言語翻訳機能を利用する場合は、別途、日本マイクロソフト株式会社の「Microsoft Azure Cognitive Services - Bing Speech API」（多言語音声認識エンジン）、「Microsoft Azure Cognitive Services - Translator Text API」（多言語翻訳エンジン）の契約が必要です。

【関連Webサイト】

- ダイバーシティ・コミュニケーションツール「LiveTalk」製品ページ：

<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/products/software/applications/ud/livetalk/index.html>

- 「聴覚障がい者参加型コミュニケーションツール『LiveTalk』を発表」（2015年4月14日プレスリリース）：
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/resources/news/press-releases/2015/0414.html>
- 「富士ゼロックスサービスクリエイティブ様、聴覚障がい者参加型コミュニケーションツール『LiveTalk』の本格運用を開始」（2015年10月22日プレスリリース）：
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/resources/news/press-releases/2015/1022.html>
- 「聴覚障がい者参加型コミュニケーションツール『LiveTalk』がグッドデザイン・ベスト100を受賞」（2015年9月30日）：
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/resources/news/topics/0930/index.html>
- 「『LiveTalk』が川崎市の福祉製品基準『かわさき基準』に認証」（2016年3月31日）：
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/resources/news/topics/0331/index.html>

【商標について】

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

以上

報道関係者お問い合わせ先

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 広報室

TEL:044-739-1520(直通) / E-mail: ssl-pro@cs.jp.fujitsu.com

お客様お問い合わせ先

[株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ](#) 商品お問合せ窓口

プレスリリースに記載された製品の価格、仕様、サービス内容、お問い合わせ先などは、発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

[ページの先頭へ](#) 

[プレスリリース](#)

プレスリリース

[関連リンク](#)[お問い合わせ](#)

2017年2月23日

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ

マルチベンダーネットワーク運用支援ツール「Net LineDancer」を 販売開始

～様々なベンダーのネットワーク機器を一括管理。コンフィグの自動バックアップや世代
管理により、ネットワーク管理コストを大幅に削減。～

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ（本社：神奈川県川崎市、代表取締役社長：林恒雄）は、ルータやスイッチ、ファイアーウォールなどのあらゆるネットワーク機器を一括管理するマルチベンダーネットワーク運用支援ツール「Net LineDancer（ネット ラインダンサー）」（開発元：株式会社ロジックベイン）を2017年2月23日に販売開始します。

企業や組織におけるネットワーク環境は、様々なベンダーの製品を組み合わせたマルチベンダーによるネットワーク機器構成が一般的となっています。また、合併などによりネットワークの統廃合を行った企業では、ネットワーク機器管理が複雑化することがあります。このような環境では作業が多様化し運用負荷が増加することで、人為的なミスを引き起こす原因となっています。

「Net LineDancer」は、多数散在する様々なベンダーのネットワーク機器を一括管理する製品です。機器のコンフィグレーション（以下：コンフィグ）を収集し、情報の世代管理の自動化や一括設定変更のスケジュール機能などにより、従来、機器毎に手動で行っていた作業の自動化が可能となり運用負荷の大幅な削減を実現します。

当社は、ネットワーク構築に関する長年の経験と豊富なノウハウを活かし、マルチベンダーの機器を多数保有するお客様をはじめ複数の拠点を展開するお客様に「Net LineDancer」の販売から導入までをトータルに提供することで、複雑化したネットワーク機器の一括管理と作業の自動化による工数削減と生産性向上を支援していきます。

【「Net LineDancer」の特長】

1. マルチベンダーのネットワーク機器を一括管理

- 富士通、Cisco Systems、A10 Networks、Blue Coat Systems、Juniper Networksなど40社以上のネットワーク機器を共通のインターフェースで一括管理することができます。対応ベンダー以外の機器についても、専用のアダプターを作成することで管理対象に追加可能です。（注1）また、管理画面は日本語表示かつ直観的なGUIが提供されており、初心者でも簡単に操作が可能です。

2. コンフィグのバックアップ、世代管理を自動化

- ネットワーク機器のコンフィグを収集し、従来、機器毎に手作業で行っていたコンフィグのバックアップや世代管理を自動化することで、常に最新状態を維持すると共に、属人的なネットワーク運用業務の人為的ミスを排除し、運用コストを大幅に削減します。

3. コンフィグ設定を予約時刻に一括変更

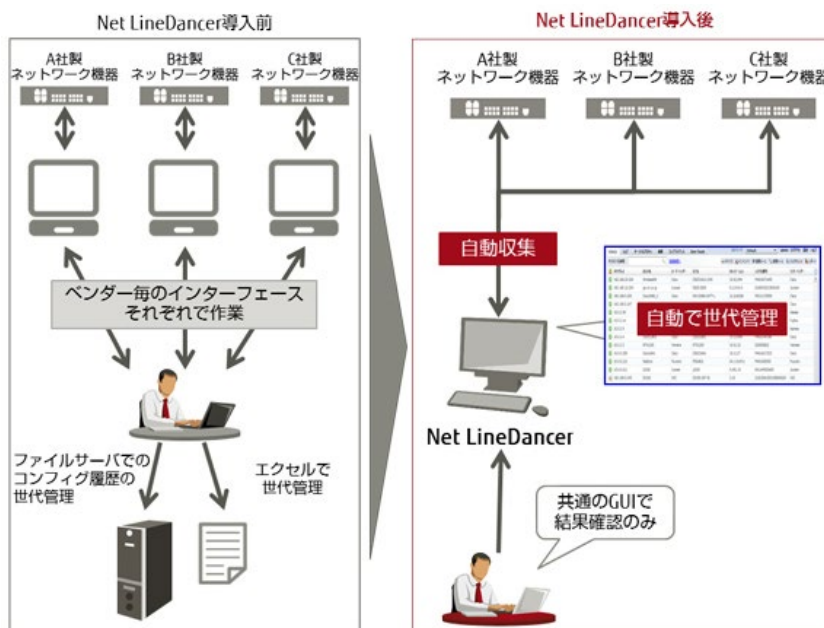
- 。複数のネットワーク機器に対し、予約した時刻にパスワードやアクセスコントロールリストなどの設定変更を実行することができます。さらに、複数項目の一括変更も可能であり、作業漏れを防止すると共に、各機器のコンフィグ設定を均一化することでネットワーク品質を維持することができます。

4. コンフィグの差異をわかりやすく表示

- 。世代間のコンフィグの差異（変更、追加、削除）を色別に表示することでコンフィグの遷移が容易に確認でき、設計変更や障害時の切り分けの迅速化を可能にします。

5. コンフィグの復元が可能

- 。稼働中のネットワーク機器に故障などのトラブルが発生した場合、復元ウィザードを利用して代替機器にコンフィグを復元することで、被害を最小限に抑え、迅速に正常な状態に戻すことができます。



[図を拡大表示 \(179 KB\)](#)

【販売価格】

製品名	販売価格（税別）	備 考
「Net LineDancer」	約70万円より	50～40,000デバイスまで対応（注2） （オプションで20万デバイスまで対応可能）

※ご希望により、設計から構築までの導入作業も対応します。（個別見積り）

【販売開始日】2017年 2月23日

【販売目標】4年間で2億円

【関連Webサイト】

- 。マルチベンダーネットワーク運用支援ツール「Net LineDancer」
<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/products/network/security/network-security/netproducts/netlinedancer/>
- 。株式会社ロジックペイン 公開Webサイト
<http://www.lvi.co.jp/>

【注釈】

- (注1) 専用アダプターの作成には別途費用が発生します。
(注2) お客様環境によって、対応可能なデバイス数は異なります。

【株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリについて】

URL：<http://www.fujitsu.com/jp/group/ssl/>

当社は富士通グループの一員として、ソフトウェア開発／システム構築を中心に事業を展開してきました。現在、それらの実績と最先端のICTをもとに「Digital Platform」「Security」「Business Application」「Innovation」の4つのカテゴリ、52のソリューション群「PoweredSolution（パワード・ソリューション）」により、お客様の企業価値向上をご支援しています。また、「オープンイノベーションHUB」として数多くの大学や先進企業と共創活動を行ってきた実績を活かし、お客様と共にイノベーションの創出に取り組んでいます。

【商標について】

記載されている製品名などの固有名詞は、各社の商標または登録商標です。

以上

報道関係者お問い合わせ先

株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 広報室

TEL:044-739-1520(直通) / E-mail：ssl-pro@cs.jp.fujitsu.com

お客様お問い合わせ先

[株式会社富士通ソーシャルサイエンスラボラトリ 商品お問合せ窓口](#)

プレスリリースに記載された製品の価格、仕様、サービス内容、お問い合わせ先などは、発表日現在のものです。その後予告なしに変更されることがあります。あらかじめご了承ください。

[ページの先頭へ](#) 